

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500704		
法人名	NPO法人ヒューマンネット大地の翼		
事業所名	グループホームうぐいす		
所在地	福岡県宮若市本城1104番地		
自己評価作成日	平成24年11月22日	評価結果確定日	平成24年12月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月家族会を開き、必ず家族だけの話し合いの時間をもうけ、率直な意見を頂いており、利用者様だけでなく、家族とも信頼関係が築けるように努力している。またホームの前の畑には、さまざまな野菜を植え、建物の周囲には季節の花々を植え、利用者様がその成長を眺めながら、また美しい花に癒されながら、日々を送っている。利用者様が最期に「ここで良かった」と思えるように、感動のある人生を送っていただきたいと花見や紅葉狩りなどの外出を大いに進めている。また、温かで家族的な雰囲気を大切に、利用者様、職員はうぐいす家の一員として毎日楽しく暮らしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎え、地域の盆踊りや清掃活動の参加や近隣のボランティアの応援も継続し、運営推進会議の協力もあり、理念の「地域に密着してみんなで、楽しく、生き生きと、安心して暮らせるように、お手伝いさせていただきます。」を実践している。毎月開催されている家族会で、「紅葉を見たい」との入居者の要望が実現したり、防災訓練や地域の子供会が参加するクリスマス会や餅つきでは家族の協力が定着している。終末期生活支援契約書を整備し、かかりつけ医と連携しながら、家族の泊りこみもあり、今年3名の入居者を看取っている。死生観や看取りの研修実施で、看取りに経験のない職員も安心した気持ちで関わることができ、家族の感謝の言葉にやりがいを感じている。また、運営方針「職員の幸せなくして、利用者の幸せなし」が貫かれ、開設時からの職員も多い働き易い職場づくりで、今後も理念の具現化が期待される

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームうぐいす**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼でグループホーム理念を全員、声に出して読み、日々の実践に活かしている。	開設7年目を迎え、ホームの理念「地域に密着して、みんなで、楽しく、生き生きと、安心して暮らせるように、お手伝いさせていただきます。」が自然体に毎日の生活に馴染んでいる。職員の分け隔てない笑顔で、入居者は日々穏やかな表情で過している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に積極的に参加しているし、地域の方にもグループホームの行事に参加していただいている。	近所から野菜が届いたり、恒例の子ども会が参加する餅つきやクリスマス会、包丁とぎの手伝いなどボランティア等の応援も継続している。小学校の運動会を見学に行ったり、敬老会には全入居者で参加し、1日楽しんでいたりしている。高校生の職場体験等を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々にグループホームの行事に参加していただいて、グループホームに対する理解や支援を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、必ず運営推進会議を行い、情報を提供し、共有している。また、行政の参加もお願いしている。	知見者、市担当者、同日開催の家族会参加者が出席し、定期的に開催している。また、テーマに合わせて警察や消防等の関係者が参加している。外部評価結果を報告し、会議録を整備している。欠席した家族にも、会議の内容を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の窓口へ出向いたり、電話で不明な点を尋ねたり、サービス向上につなげている。	参加している地域同業者協議会GHみやわか主催の研修会に、地域包括支援センター職員も頻回に出席し、詳細なことも相談できる関係づくりが出来ている。また、年末には餅を持参した市職員から、入居者が安全に食べられるようにとアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などに参加し、ミーティングなどでも身体拘束について話し合っている。現在は玄関の施錠もせず「身体拘束のないケア」を実践している。	夜間以外は施錠していない。県社協主催の研修に参加した職員が持ち帰ったチェックシートを活用し、職員一同で具体的事例を検証している。外出傾向のある入居者には後ろから職員が付き添っている。先輩の職員が入居者に「ちょっと待つて」と言った後に、それが拘束になると反省し、その姿を見て新人が成長している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相手の立場になり、小さな事でもミーティングで虐待になっていないか、話し合いを行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修、グループホームの研修に於いて、常に学んでいる。	玄関ホールに権利擁護のポスターを掲示し、成年後見制度のパンフレットも玄関に備えている。現在利用者はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について、利用者や家族等に解り易く説明ができるように、パンフレット等の活用を予定している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、内容の変更の都度文書で説明(看取りの時なども)し、理解していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回家族だけで話し合う機会を設け、要望や意見などを出していただいている。	毎月家族会が開催され、以前ホームで亡くなられたご家族が、率先して会のお世話をされている。運営推進会議の前に家族会を設け、家族の意見は運営推進会議で検討している。入居者が希望した英彦山の紅葉見学も、家族の協力で入居者全員で楽しんでいる。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、ミーティングを行い、より良い介護が出来るよう、話し合っている。	運営方針である「職員の幸せなくして、利用者の幸せなし」が貫かれ、職員の支えになっている。職員の意見で、重度化した入居者のケアを軽減するために、キャスター付リクライニングシャワー椅子を購入している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修等の情報を提供し、資格取得、研鑽を積むなどの環境がある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。シフトを組む前に、希望を尋ね、権利を十分に守っている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては役割や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。シフトを組む前に、希望を尋ね、権利を十分に守っている。	他職種からの転職者を採用し、入職後は先輩職員から業務中やカンファレスで、助言や励ましを受けている。開設時からの職員も多く、昇給や年次休暇取得、毎月8日間休みも取れている。職員の資格取得や研修参加を支援し、シフト変更の協力体制があり、おやつ時間に交代で休憩出来る等、働きやすい職場づくりをしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日常のコミュニケーション・研修・ミーティングを通して、人権について学んでいる。	高齢者虐待防止に関するマニュアルを整備している。また、県社協等の研修に参加した職員が伝達講習したり、ミーティング等で入居者の人権について話し合い、入居者の立場になって敬語で尊厳ある支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等に出来る限り参加している。また、GHみやわか、Fブロック研修などにも参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	Fブロックや、GHみやわか毎月の研修で交流を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の段階で本人の話を聴いて、理解に努め、良好な関係を築いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と連絡を密にとり、利用者が安心して生活できるように話し合い、良好な関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限り他の施設などの情報も入れて、本人にとってより良い支援を行う事を努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室、リビングでテレビや庭の花、天候の話をする事で共に生活する者同士の関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の事を最も良く知る家族と十分に話す機会をもつ事で、共に支えるという関係ができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の機会を多く持てるように支援したり、なじみの場所への外出を出来る限り努めている。	50年来信仰している集まりに出掛ける入居者に同行したり、知人や親戚の訪問を歓迎し、馴染みが途絶えないように配慮されている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの過ごし方、コミュニケーションに充分注意し、利用者同士が仲良く過ごせるよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	年賀状や行事の案内をしている。時々「懐かしい」と、わざわざ尋ねたり、電話をいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを言葉に出来る人と出来ない人も、本人の気持ちに沿って生活できるよう努めている。	ひもときシートを活用し、生活歴や職歴、衣・食・住・での希望、趣味、行きたい場所、こだわりなどの1人ひとりの特徴を担当職員が入居者や家族から把握して記録している。更に、チェックリストを活用し、職員全体で再確認している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを読んだり、家族と話したりして、本人の理解に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	発語、言葉、動きに充分注意し、現状を把握することに努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者間で充分に話し合い、介護計画が作成されている。	担当職員の気づきや意見、家族会や運営推進会議で出た意見を考慮しながら、入居者や家族の意向等を実現する短期目標を検討している。3ヶ月毎に計画を見直し、計画は本人や家族に説明し、了承を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を読んだり、情報を共有することで実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	研修、新聞、新しい職員等から得た情報で、既存のサービスに捉われないサービスを提供している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動に参加したり、花見、紅葉狩り、灯籠流しなど安全に配慮して楽しんでいただけるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医を優先し、往診をしていただいたり、家族と連携して受診を支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診や、眼科など専門医の受診も支援している。また、時間外受診や緊急入院を考慮し、近隣の協力医療機関を増やし、訪問看護ステーションと連携している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	さまざまな体調の変化があるので、その一つ一つを伝えて、受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは日頃から良好な関係を築き、入退院に際しては密に情報を交換している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明はもちろん看取りに関しては早い内から家族会等で話し合いを行い、職員全体が周知し、支援している。	具体的ケアが記載された終末期生活支援契約書が整備され、医師の説明や家族の同意・署名捺印が交わされている。ターミナルケアのチェックポイントを明文化し、死生観や看取りの心がまえを研修している。かかりつけ医と連携しながら、家族の泊りこみもあり、今年3名の看取りが行われた。看取りの経験がない職員も安心した気持ちで関わることができ、家族の感謝の言葉にやりがいを感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修やミーティング等で定期的に訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議にも取り入れたり、地域の方々と一緒に取り組んでいる。	例年防災訓練時は運営推進会議で自治会が外で受け入れることが決まりで、地域や家族の協力で2箇所のスロープを使って避難訓練を実施している。ホームの隣家から「万一の場合は飛んでいくよ」と支援の申し出があり、非常ベルは隣家側に設置するなど、近隣の協力体制もある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から言葉掛けや対応には気をつけているが、職員同士気づいたことはその場で注意合っている。	入居者一人ひとりが、職員の先輩として敬われている。入居者と職員との会話は、平易な言葉と敬語が入り混じっており自然体で会話と動作がなされ、入居者に笑顔が見られる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り声かけをしたり、傾聴を行い、本人の思いや希望を理解し、支援できるよう(家族とも連絡し)努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間など、本人のペースに合わせるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃は本人の希望に沿って、身だしなみが出来るようにし、外出時はお化粧をしたり、おしゃれが出来るよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に好き嫌い等把握し、利用者様の誕生日、旬の素材や、当ホームで取れた野菜を使い、利用者様にも用意(皮むき)していただいている。	入居者の心身の状況に合わせて、席を分けている。入居者から「美味しいね」と声が飛び交い、ゆっくりと夫々のペースで職員と一緒に食事を楽しみ、全員が完食している。畑で収穫した野菜やサツマイモや、入居者と手作りした干し柿がおやつに出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立は偏らないよう、栄養バランスを考え、水分量は出来る範囲で支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝食前、夕食後に個々の状況に応じて口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	昼間は出来る限り、パンツ等を使用し、トイレで排泄していただいている。排泄の有無の声かけを出来るだけ行い、自立に向けた支援をしている。	各入居者の排泄パターンやサインを把握し、さりげなく誘導や声かけをしている。自分でトイレに行く入居者の気持ちを大切に排泄後の頃合をみて、入居者のできないところを支援している。夜間ポータブルトイレを使用する入居者の動作に合わせて、安全を配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては個々によって差があるが、繊維の多い食べ物を提供したり、毎日ラジオ体操を2回行い、運動を働きかけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ本人の希望に沿って支援している。	週2～3回日曜以外の午後に、入居者の体調や希望に沿った入浴を支援している。一人で入浴し、気持ち良さそうに浴室から出てこられる入居者もあるが、重度化した入居者は2人体制で支援している。入浴を拒む場合は、職員を交代したり、足浴を勧めたり、全身清拭する等工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況に合わせて、活動量を調整し、休息したり、安眠できるよう支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の一覧を各利用者様ごとにファイルしてあり、いつでも確認できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事に参加していただいたり、絵の色塗りやカラオケ、日光浴等1日を楽しく過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はできるだけ戸外に出るようにし、気候の良い時は花見や紅葉狩り等家族と一緒に外出している。また家族の協力で本人の実家に行かされている。	車椅子で散歩に出掛けたり、お参りに同行したりしている。家族の協力で魚料理を食べに行ったり、英彦山のロープウェイを貸し切り紅葉狩りしたり、季節の花見など積極的に外出を支援している。96歳で初めて英彦山の紅葉を見た入居者の笑顔に職員も励まされている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方はご自分で持っておられ、いつでも使えるようにしている。外出時はそれぞれの預かり金から買い物をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話を掛けたいときはいつでも事業所の電話を使い、また手紙やプレゼントが送れるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごせるよう、利用者の言動を反映している。自然の風や光を取り入れたり、カーテンやエアコンも使用。また換気扇や空気清浄機も使っている。庭の花や野菜も飾っている。	玄関ホールには生花が香り、共用の玄関、廊下、食堂、トイレ、居間は木造づくりで和める空間になっている。トイレは車椅子の方を介助できるスペースが十分にあり、清潔感がある。日中は食堂で寛ぐ入居者も多く、オープンキッチンから食事を作る匂いや音が聞こえ、吹き抜けの天井で明るく落ち着いた雰囲気である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには椅子やソファを置き、ベランダや玄関にも椅子を設置し、自由に居場所を選んで過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が大切にしていた物や使い慣れた筆筒、ベッド等持ってきていただいている。また和室を好む方は畳にしている。	入居者の希望や生活歴、身体状況に合わせ、畳敷きの部屋やフローリングの部屋を設けている。各居室には、愛用のベットや使い慣れた家具や椅子、テレビを持参したり、夫の遺影や家族写真、ホームでの笑顔の写真が飾られている。掃き出しのサッシから近隣の庭木や畑の野菜等が見え開放的である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレは手すりを設置し、各部屋には表札を置き、トイレは分かりやすい言葉で書いている。		